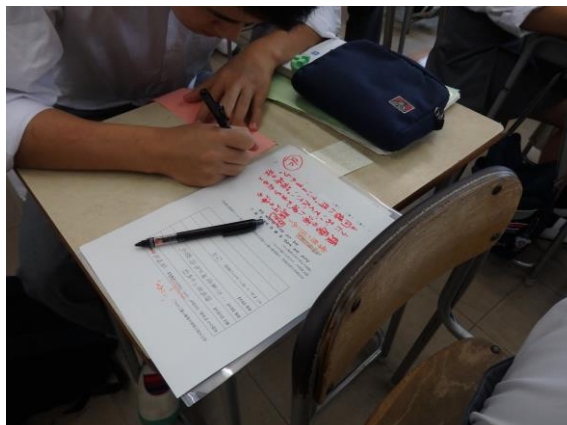


逗葉高校の授業（古典）実施報告

平成 29 年度の文化祭のテーマが「キラキラ」ということに決まり、古典ではそこから連想して、「キラキラ→光る→源氏物語」にたどりつきました。江戸時代に成立した黒沢翁満（くろさわおきなまる）が編んだ『源氏百人一首』を教材にして、思考力・判断力・表現力を身に付けるための授業取組をしました。（50分×4時間）



古語辞典を使って調べた成果をもとに「最良の現代語訳」を完成させる【左右上図2枚】



色上質紙にペン書きをする



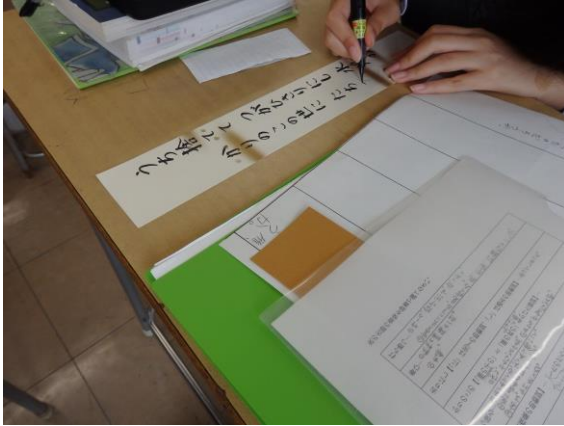
各自のペースで学習する生徒

【学習目標】黒沢翁満が選定した「源氏百人一首」の中の、主要な登場人物の和歌を、既存の現代語訳を比較しつつ、各自が判断した最良の現代語訳を作る。

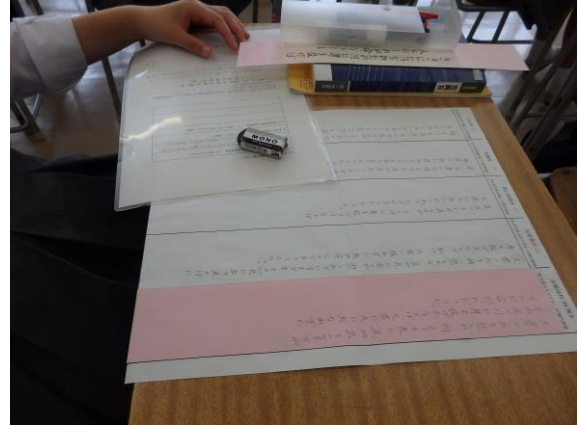
【作業手順】

- 1 それぞれの分担を決める。
- 2 著名な出版社から出されている、研究者の現代語訳をそれぞれ転写し、各自の判断で「わかりやすさ」の度合いを「◎・○・△」で示す。
 - ①岩波「日本古典文学大系」1～4 山岸徳平
 - ②朝日「日本古典全書・源氏物語」1～5 池田亀鑑
 - ③新潮社「日本古典集成」1～6 石田穰二・清水好子
 - ④小学館「日本古典文学全集」1～4 阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男
- 3 古語辞典を使って、自力で単語調べをする。
- 4 最良と思われる現代語訳を完成させる。（研究者の訳を参考にしつつオリジナルを作る）

- 5 清書用色上質紙に「最良の現代語訳（逗葉高校オリジナル）」をペン書きする。
- 6 鳥ノ子紙の短冊に筆ペンを使用して、短歌を書く。
- 7 清書用色上質紙を「研究者の訳の一覧」に糊付けする。
- 8 黒模造紙に短冊・オリジナル訳・研究者訳を糊付けする。
- 9 『源氏百人一首』の歌留多絵を糊付けする。
- 10 「登場人物紹介」を糊付けする。



和紙の短冊に本文（短歌）を揮毫する



「一覧」に糊づけをする



「現代語訳」だけでなく、出来上がる作品の「美しさ」も「最良」を目指す姿

文化祭展示に先駆けて、本単元の最終授業に「ふりかえり」としてアンケートを実施しました。項目は—①短冊に短歌を筆ペンで揮毫したこと ②辞書を使いつつ現代語訳を自力で行ったこと ③各研究者の現代語訳を比較して「わかりやすさ」の順位をつけたこと—以上の三つです。紙面の都合上、その一部〔黒丸印=②、黒菱形=③〕を掲載します。

- 写すよりも自分で調べると手間がかかるので、頭に残るなと思いました。●自力で現代語訳をするのも初めてだったけれど、考えることによってその短歌についての意味がよくわかった気がする。●古単語の意味を見極めるのが一番難しかった。●今はわからない言葉はスマートフォンで調べることが多くて辞書を引くのは久々だったけれど、なかなか新鮮だった。
- ◆それぞれの研究者はみんな同じことを言っていない（持論をもっている）ことがわかった。◆よく考え、自力で選ぶことができた。◆順位をつけて、自分の中でわかりやすいのを考えたりすることができて、比較して順位をつけるのもいいなと思いました。◆いろいろな訳を知ることができて楽しかった。

逗葉高校では、生徒の「深い学び」を目指して、主体的・対話的・協働的な授業に取り組んでいます。